

大牟田市立手鎌小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、地域遺産学習を中心に、郷土のよさを知り、郷土の発展のためにもともに考え行動するためのESDを展開している。

手鎌校区には、干拓の歴史と干拓の仕事や農業で暮らしを立ててきた人々の営みがある。また、有明海の家づくりなど海に生きる人々の営みがある。

本校のESDは、そうした人々の営みに目を向け、歴史、文化、産業、暮らしを関係付け、郷土のよさを多面的・総合的にとらえるようにするESDである。学習の対象や場を家庭、学校、校区、大牟田市へと次第に広げ、それぞれの学年に応じた豊かな体験活動を通して、社会の担い手として必要な資質を育てていく。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

地域遺産学習を柱とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科、外国語活動、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を策定している。

生活科・総合的な学習					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
「お手伝い大きせん」 わたしにできることは	「ぐんぐん育て」 学校でやさいづくり	「安全なまちづくり」 安全マップづくり	「未来に伝えたい手鎌の歴史」 干拓の学習と渦いね踊り	「手鎌の農業と食文化」 農業体験と串だごづくり	「世界遺産学習」 大牟田の発展の歴史とこれから
各教科		外国語活動		道徳	特別活動

3 特徴的な活動事例

【第4学年・地域遺産学習『未来に伝えたい手鎌の歴史』干拓の学習と渦いね踊り】

4年生は、手鎌校区の干拓の歴史を学習した。「手鎌歴史と里山の会」の皆さんに、年表とスライド、立体地図を使って手鎌校区の干拓の歴史について説明していただいた。立体地図は、干拓地を時代別にはめ込むパズルのようになっていて、時代ごとに干拓地が広がっていく様子がよく分かった。

また、干拓に使われた道具の模型を持ってきていただき、子ども達に作業の模擬体験をさせていただいた。硬い土にくわを入れるのには大変な力が必要だったことや、担いだ棒がしなるほど土を入れて運んだことなどを話していただき、先人の苦勞を理解することができた。



干拓の学習

干拓の歴史の学習の後、「手鎌潟いね保存会」の皆さんに、潟いね踊りを教えていただいた。潟いね踊りは、干拓の作業の様子と作業をした人々の素直な気持ちを表現した踊りである。

子どもたちは唄や踊りをくり返し練習しながら、踊りが表していることを理解していった。干拓の学習と合わせて、郷土の発展の歴史と発展に尽くした人々の姿をとらえることができた。



潟いね踊りを教わる子ども達

【第5学年・地域遺産学習 『手鎌の農業と食文化』 農業体験と串だごづくり】

5年生は、校区の農家の方のご協力で、7月に田植え体験、10月に稲刈り体験をさせていただいた。どちらも手作業で行い、農作業の大変さを体験を通して理解した。

収穫した米を使って、「黒崎串だご」を作った。「手鎌歴史と里山の会」と「手鎌潟いね保存会」の皆さんに学校に来ていただき、昔ながらの製法を教わって作った。干拓の仕事や農作業の合間に食べられていたという串だごの由来についても学び、産業と文化とくらしの関係をとりえることができた。



田植え体験

4年生・5年生の学習を通して、子ども達は、手鎌校区が干拓によって開かれ、人々がそこに農地をつくり農業をさかんにしたことや、産業やくらしに根差した郷土文化を生み出していったことを、手鎌の人々とのかかわりや体験活動を通して理解した。



串だご作り

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・校区の事象を、持続可能な開発のモデルとして教材化することができた。
- ・郷土の歴史・文化・産業・くらしを関係付けて学びながら、人々の知恵や努力、協力の姿を子ども達がとらえることができた。

○課題

- ・集団や社会のためにできることを考えるという社会参画の面から、学習内容・活動の充実を図ること。
- ・6年生で世界遺産学習を行ったが、学びの深まりが十分ではなかった。4年生の世界遺産学習の内容との関係を見直し、そこから発展する内容にして、体系的なカリキュラムとすることが必要。